

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 倉敷北
日付	平成17年9月12日
評価機関名	有限会社 アウルメディカルサービス
	評価調査員： 薬剤師・介護支援専門員
	認知症介護経験8年 障害者、老人介護支援
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

<p>講評</p> <p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>(記述式)</p> <p>事業主の「強制的ではなく、積極的なかわりを持つ」という考えが徹底されています。</p> <p>レクリエーションとしてボール投げ、輪投げ、ダンベル体操、紙芝居、本を読む、ぬり絵をするなど様々なメニューを用意して、入居者がじっとしないような工夫を凝らしています。特に入居者個々のレベルが異なるので、全体として行うものと個別に行うものに分けて対応しています。又、週1回のカンファレンスで、入居者それぞれの状態を把握し、どうすれば良いか職員全体で考え、将来につながるような努力が見受けられます。</p> <p>施設が街の中心にあるので、様々なメリットを生んでいます。例えば、入居者の家族の面会時間が弾力的なこともあります。交通の便が良い為、頻りに気軽に家族の方々が訪問してくれます。そこでの意見交換がよく出来ているので、ケアプランに常時反映されています。又、食事のメニューは職員が入居者の楽しみを奪わない様、丹念に工夫を凝らし、栄養バランスや色取り等、栄養士が入念にチェックをしています。食材も入居者と一緒に、毎日近所にあるスーパーに出かけ、買い物を通じて、喜びを与えられる様にしている、入居者の絶大な楽しみとなっている様子が伺えます。</p> <p>帰宅願望があり、徘徊する入居者もいますが、今の状態が普通であるとの認識に立って対応しながらレクリエーションに参加することにより「帰りたい」と思う時間が徐々に薄まっているように感じます。</p> <p>職員の努力で心の鍵が、開けられる日もそう遠い日ではないことと思います。</p>
<p>改善の余地があると思われる点</p> <p>(記述式)</p> <p>薬を服用できたかどうかの確認ができていません。薬は入居者の手に直接渡し、服用がきちんとできたか最後まで確認して下さい。</p> <p>また、介護の記録はきちんと取っていますが、行動の列挙になっているようです。その時々入居者の表情が分かるように表現してもらいたいと思います。</p>

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	(記述式で回答)		
	家庭的な雰囲気の中で入居者本人の気持ちを大事にして生活してもらっているが、入居者のやりたいような「のんびり、ゆっくり」では機能面の低下が見られる。職員の側から積極的なかわりを持ち、強制的ではなく入居者本人から「やってみよう」と思わせる工夫をしている。体をつかうこと(ボール投げ、ダンベル体操など)、頭を使うこと(本を読む、色塗りをするなど)、メリハリのある生活、知らず知らず一般的な日常の生活ができるようなグループホームを目指している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	(記述式で回答)		
	入居者の行動が異常行動であってもそれを異常行動とは思わず、その異常性を認めてあげて対応を繰り返すと次第に落ち着いてくる。帰宅願望が一日中あっても時々外に連れて行ったり、レクリエーションで一緒に輪投げやボール投げをしていくと次第に帰りたいという気持ちが無くなっていく。まったく帰宅願望がなくなるということはないが、そう思う時間が短くなっていく。それだけでできれば良いという気持ちでやっている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	ブライトを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	(記述式で回答)		
	仕事で魚を扱っていた人には、食事の準備で魚をさばいてもらう。学校の先生には朝礼のような挨拶をしてもらうなどこれまでの経験を大切にしている。病院に入院していた人など何もしていなかった人には洗濯物の片付けやテーブル拭きなどできることからお願いし、自分からしようという気持ちを持てるように声かけをしてきたら「ありがとう」とお礼を言っている。グループホームのホームページには入居者の写真が載っているが家族にきちんと説明し同意を得てから載せている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	講習会に出かけることもある。また、職員に対して入居者とどのような関わりを持ちたいかのアンケートを取る。今までどのような関わりをしているかの記録を取り皆の参考としている。週1回のカンファレンスで入居者個々の状況を説明し、今後はどうするか話し合いをしている。上から「こうしなさい」と言うのではなく職員に「どうでしたか」と問いかけ職員に考えてもらい意見を求めている。		